

論文の内容の要旨

論文題目 Effects of REDD+ Initiative on the Vulnerability of Local Communities to Climate Change:
Implications to Forest Governance in the Philippines
(気候変動に対する地域社会の脆弱性への REDD プラス政策の影響：
フィリピンの森林ガバナンスへの含意)

氏名 ローズ ジェーン J. ペラス

1 章：序文

気候変動は、現在の人間・自然システムに対する明白で最大の脅威である。この脅威へ地球規模で取り組むメカニズムとしての REDD プラスは、フィリピンのグローバルな気候変動政策の重要課題として位置づけられた。そして、「コミュニティを基盤とする森林管理」(CBFM)、すなわち分権型の森林管理を実施しているコミュニティでは、REDD プラスが CBFM に好ましい結果をもたらすことが想定される。REDD プラス政策は現在準備段階にあるため、初期段階の効果を評価して気候変動に対する人々の脆弱性を低下させるための教訓を得るのは価値がある。森林ガバナンスはその実施過程で方針が損なわれる可能性があるため、REDD プラス政策を展開する際に非常に重要な役割を果たす。

以上より、本研究では、南レイテの REDD プラス・パイロット的実証地域を事例とし、気候変動の影響に対する森林依存コミュニティの脆弱性を REDD プラス政策でどの程度まで対応できるのかを明らかにすることを目的とした。具体的な研究課題は、(1) 気候に関連する極端な事象への地域社会の脆弱性を評価し、(2) 持続可能な生計、コ・ベネフィット、トレード・オフ、社会・環境セーフガードの遵守に対する REDD プラスの影響を明らかにし、(3) 事例研究対象地における REDD プラス実施への示唆を得るとともに、フィリピンの森林ガバナンスへの含意を得ることである。

2 章：理論枠組み

本研究の包括的な枠組みとして「持続可能な生計アプローチ」を適用した。CBFM 実施の目標は、変化する気候と森林ガバナンスシステムに直面した際に、REDD プラス政策の有無に関わらず、地域社会に必要な 5 つの生計資本を満たすことで持続可能な生計を達成することである。持続可能な生計達成への CBFM 実施および REDD プラスの貢献は、地域社会の気候変動に対する脆弱性に影響を与える。同様に、森林ガバナンスシステムはこのような脆弱性を持続可能な生計の達成に重要な役割を果たす。

3 章：方法

REDD プラスのプロジェクト参加者と非参加者を含む 108 人への世帯調査を実施した。また、フォーカス・グループ・ディスカッション、キー・インフォーマント・インタビュー、二次データの収集を実施し、研究成果のより広い含意を包括的に検討した。

CBFM と REDD プラスの影響および二つの CBFM 実施組織に関する脆弱性指標を分析する際には、記述統計学と両側 t 検定を活用した。CBFM と REDD プラスによる生計資本への影響を検討する際には ladder diagram を使用した。なお、事例研究対象地の森林ガバナンスの状況を示すため、森林ガバナンスに関する FAO など複数の指標を組み合わせ使用した。

4 章：CBFM 実施による生計資本への影響

分析の結果、CBFM の実施は CBFM メンバーの人的資本、社会関係資本、自然資本、物的資本の形成に大きく貢献したことが明らかになった。一方で、金融資本への貢献は明確に示されなかった。さらに、資源の状況、一般的な福祉水準、村の会合への参加、などが良い方向へ変化すると軋轢が減少し、資源管理の決まりが遵守される一方で、人々の所得および資源へのアクセスや制御は低下したことが示された。

5章：CBFM 実施コミュニティの気候変動に対する脆弱性と持続可能な生計への REDD プラスの影響

REDD プラスは持続可能な生計の実現へほとんど貢献しないことがわかった。パイロット・プロジェクトの活動は、自然資本と金融資本を改善したものの、金銭的利益は一時的なものである。コ・ベネフィットには、排出削減、生物多様性保全、パイロット・プロジェクトによる所得、森林の違法伐採等の発生件数の低下などが挙げられる。トレード・オフは森林の囲い込みによって生じ、植林によって失われた機会費用を示す。アグロフォレストリー地域を適切に管理し、また成熟林からしっかりと木材生産を行うことにより、社会・環境セーフガードが確保されることが示唆された。しかし、現場レベルでの課題は多く、フィリピンにおける REDD プラスの社会・環境セーフガードの下で取り込まれる必要がある。REDD プラスの準備段階では CBFM 実施コミュニティの脆弱性を低下させることを保証できないが、この段階で確立された生計戦略は長期的には持続可能な生計の達成に貢献するであろう。REDD プラスの主な欠点は、持続可能な生計という目標にほとんど注意を向けないことによって CBFM 政策の失敗を恒久化することである。

6章：気候変動の影響への CBFM の脆弱性

2つの CBFM 実施組織の生計脆弱性指標（LVI）を推計し検討した。その結果、事例1（MUSDA）の LVI は、事例2（YISEDA）よりも高いことが示された。それは、より強い災害を受け、気候変化がより大きく、生計戦略が限定され、医療施設へのアクセスが悪く、水供給が劣っているためである。また、調査対象地で30年にわたって実施されてきた CBFM は、参加者たちの気候変動への適応力を高める効果をほとんど有していなかったことも明らかになった。

7章：フィリピンの REDD プラスから森林ガバナンスへの含意

将来、REDD プラス政策が成功したら、フィリピンの CBFM 対象地内で良い森林ガバナンスが実現するであろう。本研究では、事例研究対象地における現在の森林ガバナンスを表すいくつかの要素で「高い」または「非常に高い」スコアが示された。これは、フィリピン高地での気候変動への回復力を向上させるべく持続可能な生計を重視する方針をもつ CBFM 対象地で REDD プラスの実施可能性が高いことを示唆している。しかし、透明・公平なやり方で REDD プラスを完全実施するにあたり、政治的なバイアスと干渉を避けるため、進捗状況の綿密なモニタリングは、行政、NGO、および他の関係者と協力して行われる必要がある。

8章：結論および政策的含意

CBFM は世帯の生計資本の形成に大きく貢献するが、REDD プラスによる貢献はほとんど見られない。二つの事例ともに自然資本を強化し森林管理における法遵守を向上させたが、地域社会による資源へのアクセスや制御は縮小された。CBFM 実施上の課題を考慮し、かつ良い森林ガバナンスの下での持続可能な生計を確保することにより、REDD プラスは気候変動に対するコミュニティの脆弱性を低減させる可能性をもつ。もしも、CBFM の成功を生かして REDD プラスを実施しようとするならば、持続可能な生計を重視する取り組みを行う 1,888 の CBFM 実施組織の実行可能性を政府が評価することが不可欠となる。5つの生計資本の改善は、コミュニティによりよい気候変動への適用を促し、それゆえ将来の気候変動への脆弱性を低減させる。また、生

計資本の均衡ある改善は、排出削減という目標を傷つけるものではない。現場レベルでは、森林の囲い込み、違法な木材伐採人・販売人・投資家の影響、それに REDD プラスにおける CBFM の失敗の長期化といったリスクが生じており、解決が求められる。それゆえ、すべてのレベルで REDD プラスを完全実施する前に、REDD プラスの設計を改善する必要がある。